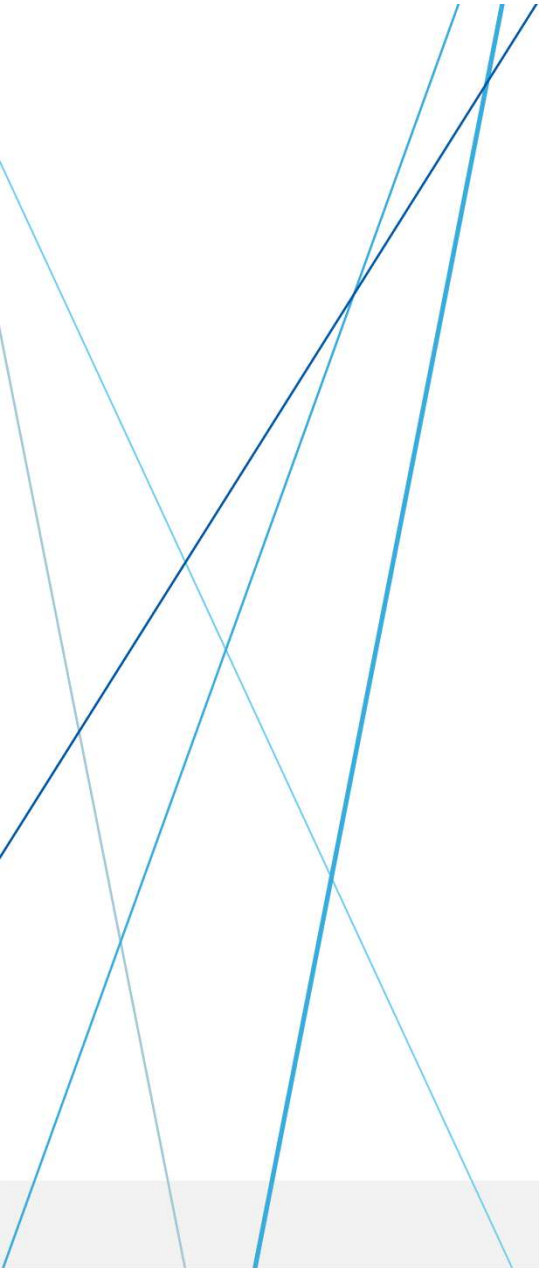




流通POS端末専門委員会活動報告

2026年7月17日

流通POS端末専門委員会

東芝テック株式会社 竹内 大祐

JEITA 一般社団法人
電子情報技術産業協会

1. 2025年度 流通POS端末専門委員会 参加会社
2. 流通POS端末専門委員会の活動
3. POS端末 2025年度 出荷実績
4. POS端末 3カ年 出荷見通し
5. カード決済端末の動向、2025年度 出荷実績、3カ年出荷見通し
6. 「Beyond Devices - AIで拓く、情報端末産業の新領域と価値創造-」におけるPOS端末について

1. 2025年度 流通POS端末専門委員会 参加会社

- 東芝テック(株)
- 富士通(株)
- ステアリテール(株)
- シャープ(株)

※統計参加会社は 計10社(上記4社含む)

2. 流通POS端末専門委員会の活動

1. 流通POS端末装置の出荷実績調査

POS端末・無線POS・セルフチェックアウトシステムの出荷実績調査と傾向分析

2. 3ヶ年出荷見通し調査

POS端末市場見通し、無線POSの占める割合、セルフチェックアウトの占める割合、市場の伸びの見通し

3. カード決済端末の動向

カード決済端末の出荷実績と3ヶ年出荷見通し調査

3. POS端末装置 出荷実績

■ 製品の定義：POS端末(POSターミナル)

- ECR機能を有し、単品（アイテム）別に収集した販売情報や、仕入れ、配送段階などの時点での情報をコンピュータに送り商品データの管理をするもので、コンピュータに接続するための通信機能を有し、POSとして型番を取っているものに限る。

注1）ECRそのものは除く。

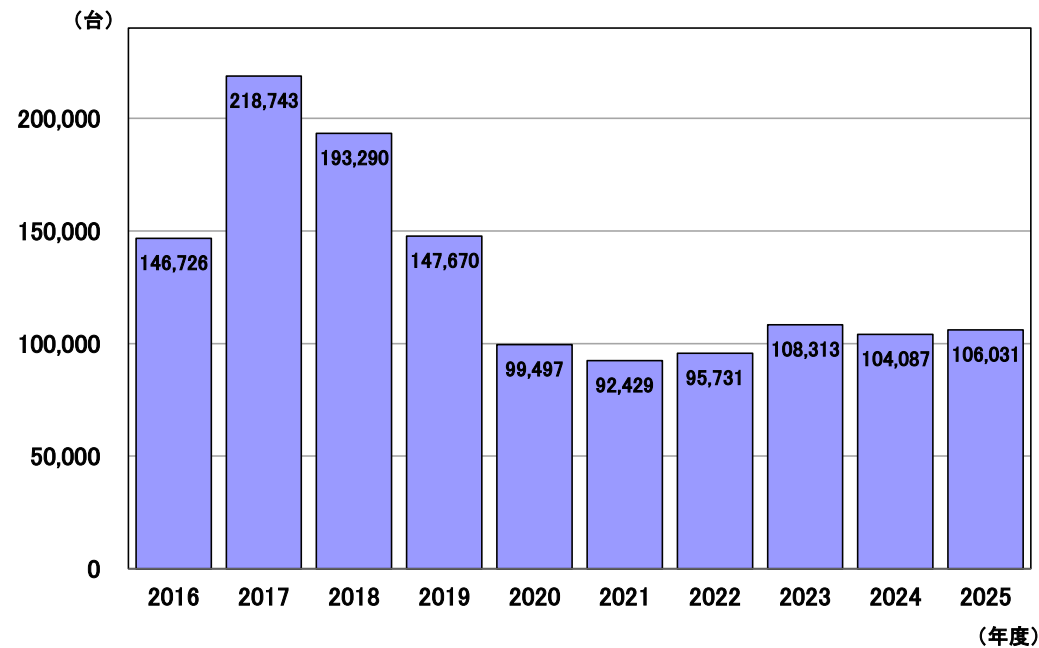
■ 自主統計

- 自主統計参加会社10社による四半期毎のデータに基づく
- 自主統計への参加会社10社の回答は、国内POS市場のほぼ全体を捉えており、本調査結果は国内POS市場の実態を示した統計であるとする。

3.1 年度別POS端末出荷台数実績推移

■ 出荷台数＝約10.6万台、前年度比102%

- 2020年度から2022年度にかけて10万台を割り込んでいたが、2025年度は、2024年度に続き10万台を超える結果となった。しかし、2019年以前の水準には至らなかった。
- 2017年度から2018年度にかけては、大手コンビニエンスストア3社(以下、CVSとする)の一斉POSリプレイスにより、過去20年で最大規模の出荷台数を記録した。

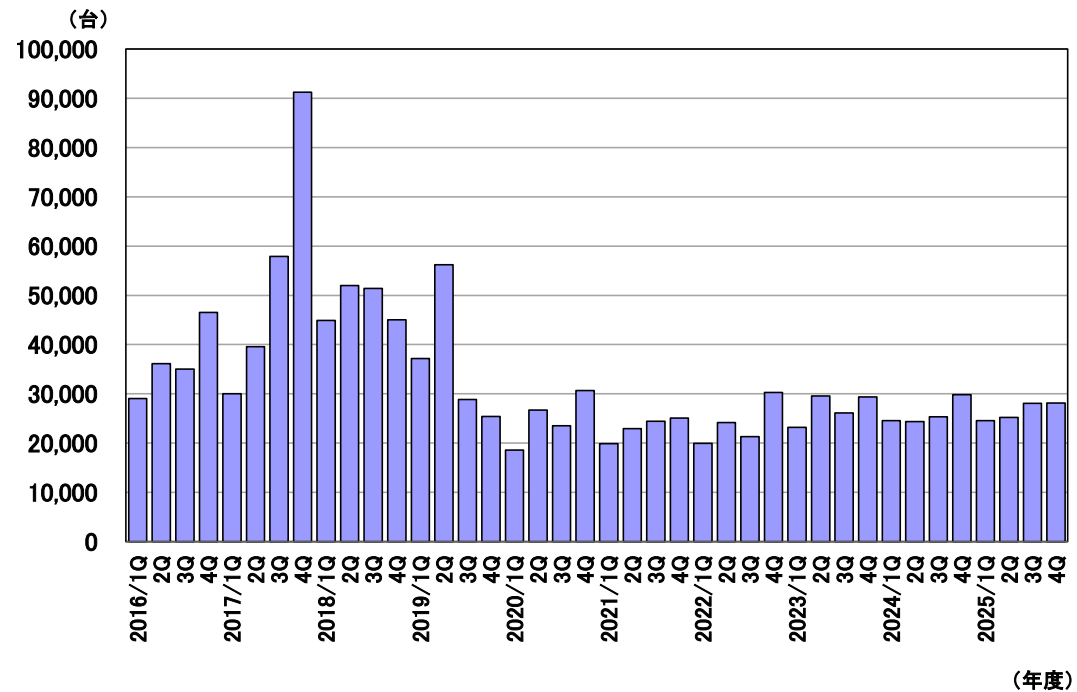


3.2 四半期別POS端末出荷台数実績推移

■ 第1、第2四半期は、前年比同等

- 第1四半期:100%,第2四半期:103%,第3四半期:111%,第4四半期:94%
- 出荷台数が増える傾向にある第2四半期が微増,第3四半期は11%増加した。

第4四半期においては、2024年度と比較し6%減の結果であったが、全体の台数推移は安定している。

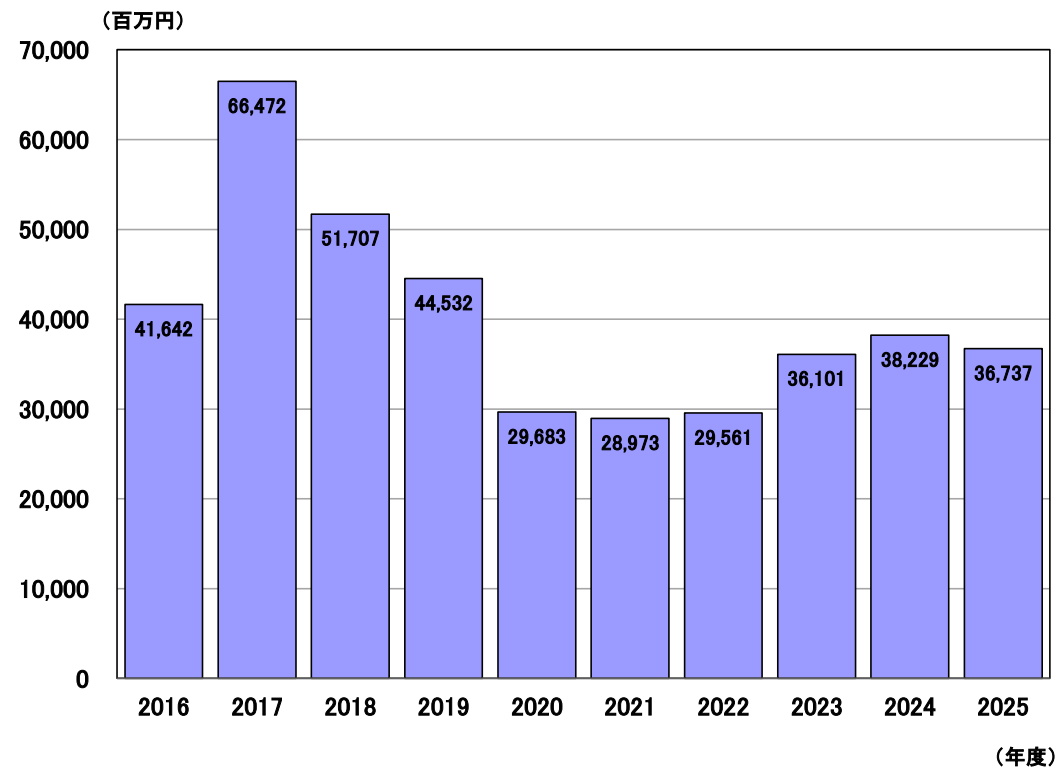


3.3 年度別POS端末出荷金額実績推移

■ 出荷金額＝約367億円 前年度比96%（約15億円減）

- 過去20年で最低の数値だった2021年度以降より年々増加傾向にある。

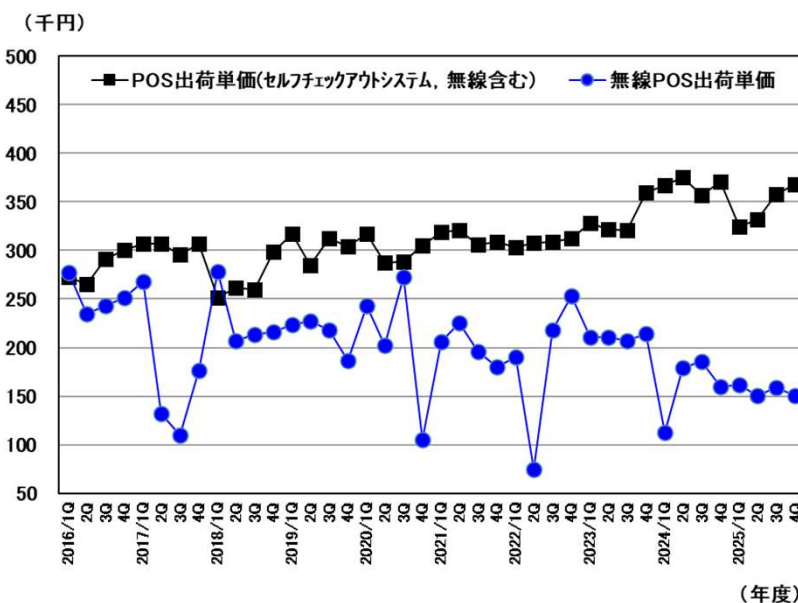
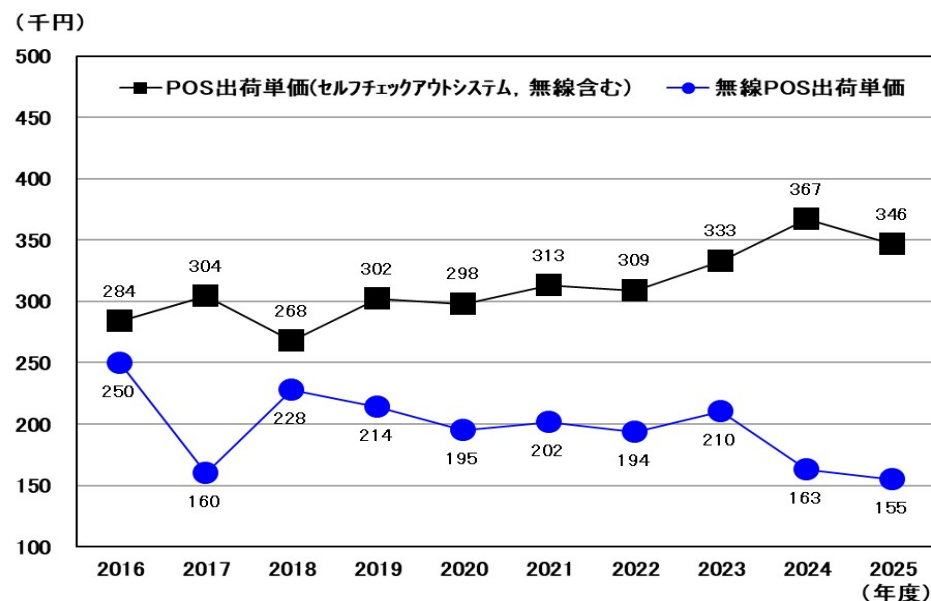
25年度は24年度よりも出荷金額が下回ったが、300億円を大きく上回る水準となった。



3.4 POS端末出荷単価実績推移

■ 出荷単価＝約34.6万円 前年度比94%(2.1万円減)

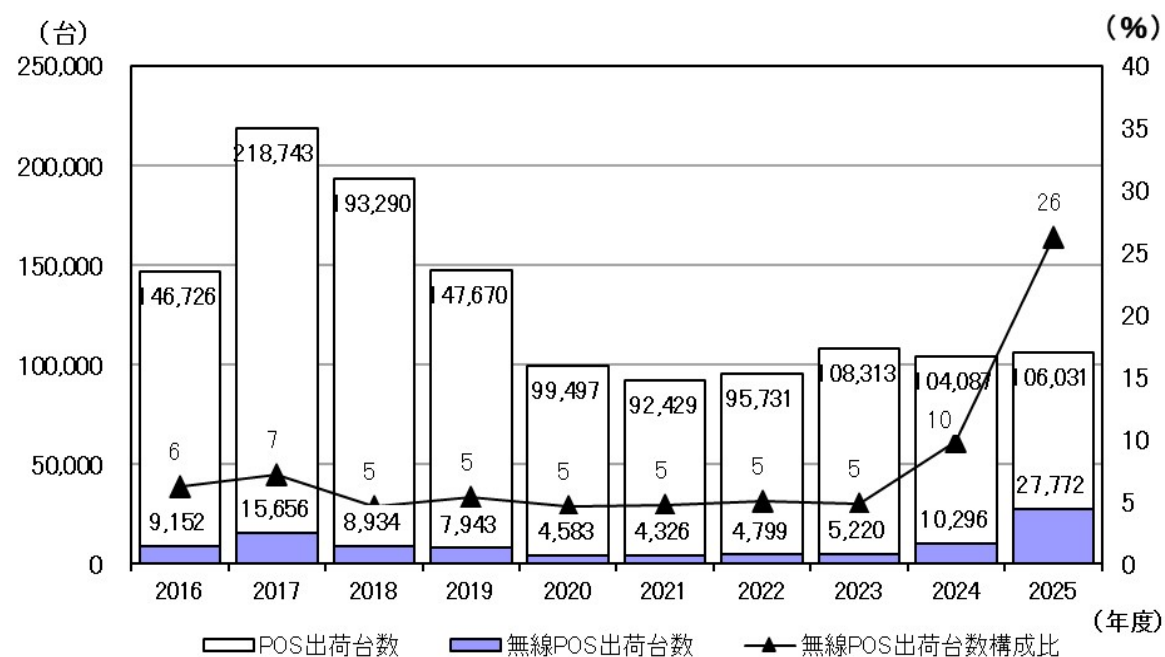
- 過去10年で最低だった2018年度の単価から上昇基調、2025年度は前年比減少結果だが2023年度実績を上回っている。
- 単価の高いセルフチェックアウトシステムの割合増加や、為替や物価上昇による販売価格の上昇が窺える。



3.5 無線POS 年度別出荷台数実績推移

■ 出荷台数 27,700台 前年度比270%（構成比26%）

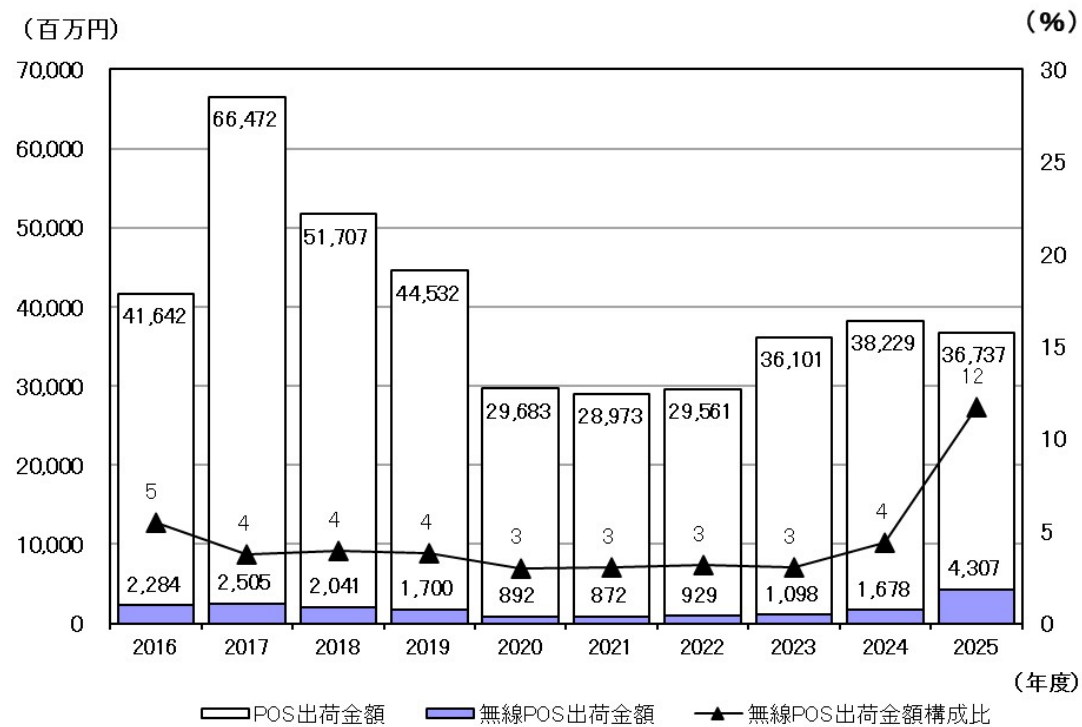
- 無線POS出荷台数の構成比は5～7%前後で推移。
- 2024年度は10%，2025年度は更に上回る26%の構成比となった。



3.6 無線POS 年度別出荷金額実績推移

■ 出荷金額 約43.1億円 前年度比257%（構成比12%）

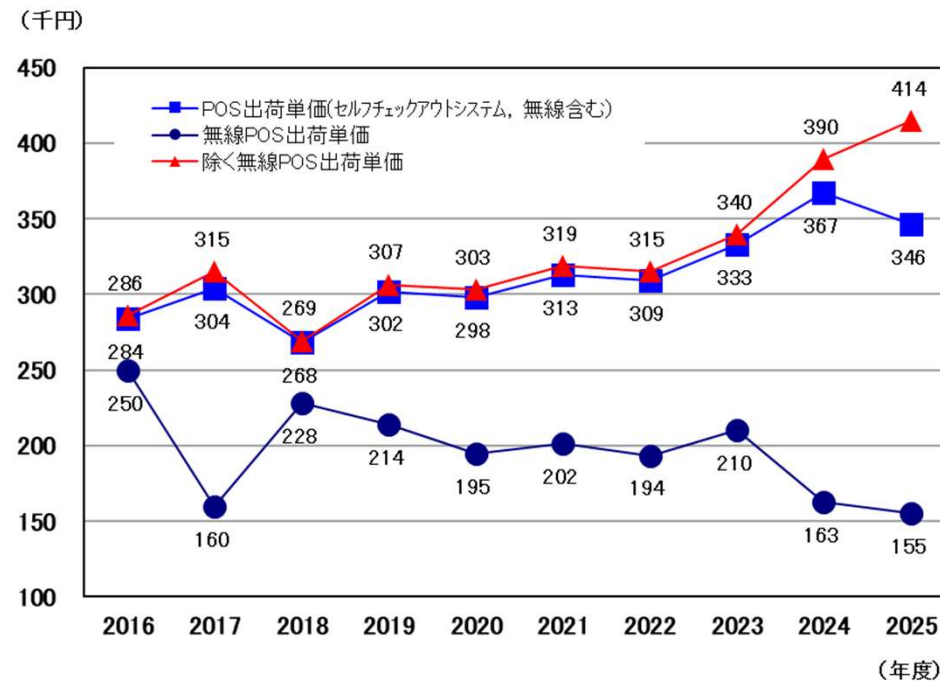
- 無線POS出荷金額の構成比は2016年度から低いレベルで推移。
- 2024年度の構成比は4%で、2025年度は12%と大きく上回っている。



3.7 無線POS 年度別出荷単価実績推移

■ 出荷単価 15.5万円 前年度比95%（0.8万円減）

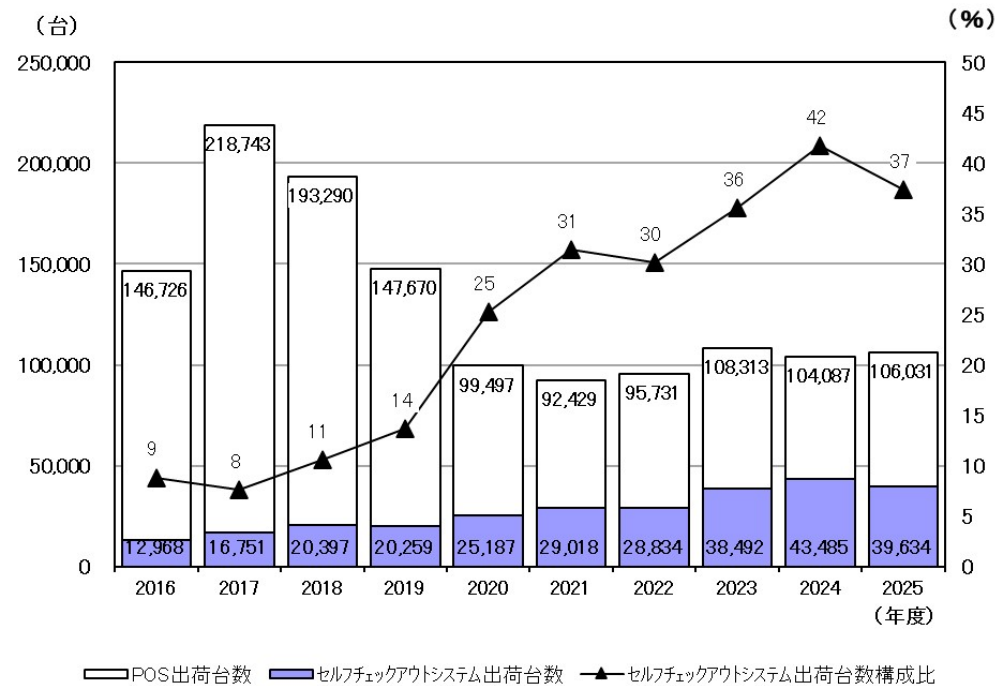
- 2023年度までは横ばいが続いていたところから2024年度,2025年度で大幅減となった。
- 出荷台数大幅増, 出荷単価大幅減となっていることから, 大口取引における販売価格の低下にあると窺える。



3.8 セルフチェックアウトシステム 年度別出荷台数実績推移

■ 出荷台数 約4万台 前年度比91% 構成比37%

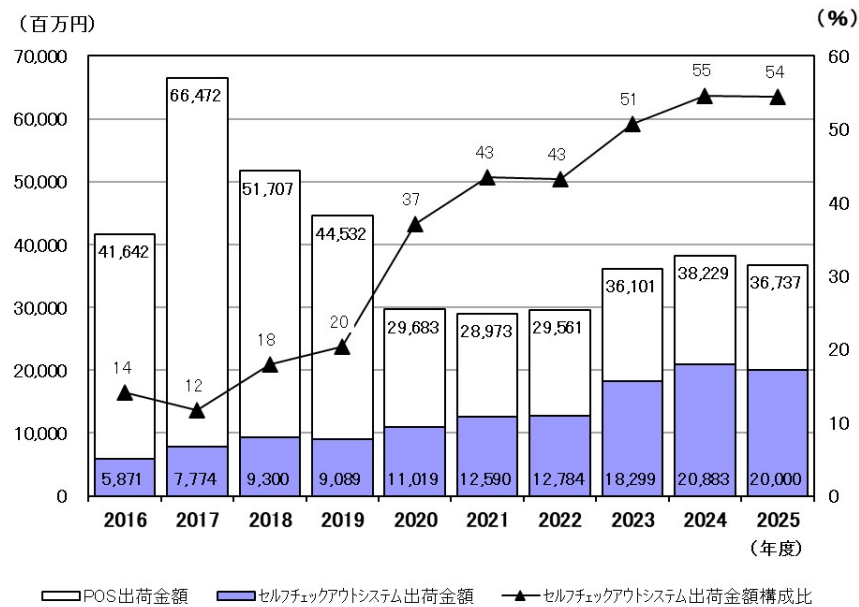
- セルフチェックアウトシステム(フルセルフ、セミセルフ両方を含む)の出荷台数は右肩上がりであったが、2025年度で4,000台程度落ちている。
- POS端末 出荷台数全体に占める割合は2025年度から5%下降。
- 2025年度に出荷されたPOS端末のうち、約3台に1台はセルフチェックアウトシステムである。



3.9 セルフチェックアウトシステム 年度別出荷金額実績推移

■ 出荷金額 約200億円 前年度比96% 構成比54%

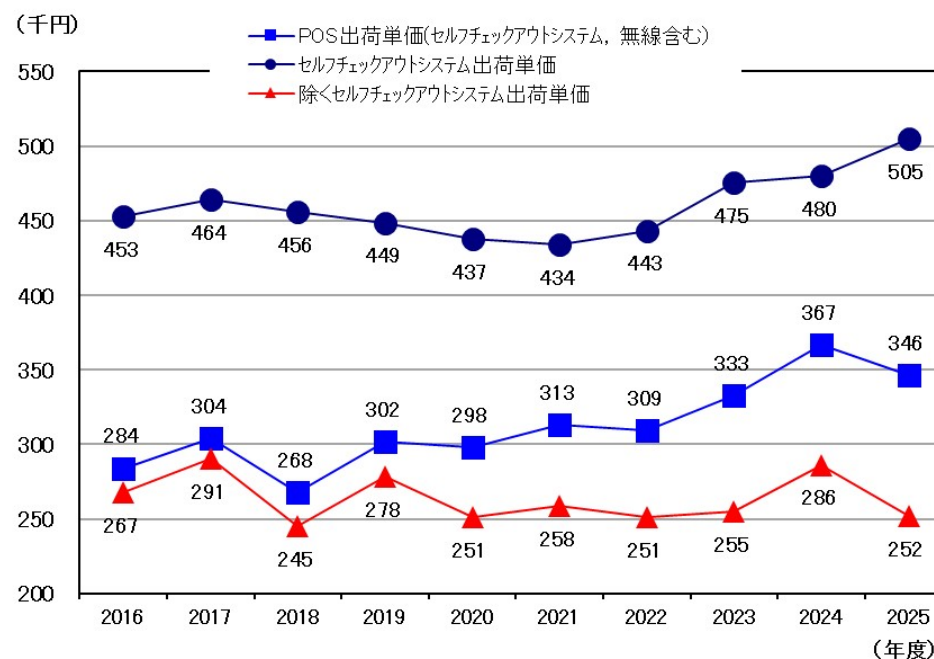
- 2025年度は微減、セルフチェックアウトシステムの出荷金額およびPOS端末出荷金額全体に占める割合は上昇傾向
- 高齢化による労働人口減少や人手不足への対策に加えて、キャッシュレス決済の普及にともないキャッシュレスセルフが増加していることで、セルフチェックアウトシステムのニーズは相変わらず高い。
- 国内のPOS端末装置市場において安定した地位を築いたと窺える。



3.10 セルフチェックアウトシステム年度別出荷単価実績推移

■ 出荷単価 約50.5万円 前年度比105%

- 例年通り、セルフチェックアウトシステムを除くPOSの出荷単価の約25.2万円を大きく上回る
- セルフチェックアウトシステムを除くPOSの出荷単価が大きく落ちているが、セルフチェックアウトシステムの出荷単価は上昇傾向となっており、単価推移からもセルフチェックアウトのニーズが高まっていることが窺える。



4. POS 端末装置出荷見通し

1. 調査形式:アンケート

2. 参加会社数:自主統計参加会社 10社

3. 調査内容:今後3ヶ年の出荷見通し

POS端末の出荷台数・出荷金額（伸長率）

POS端末のうち、無線POSの出荷台数・出荷金額(構成比)

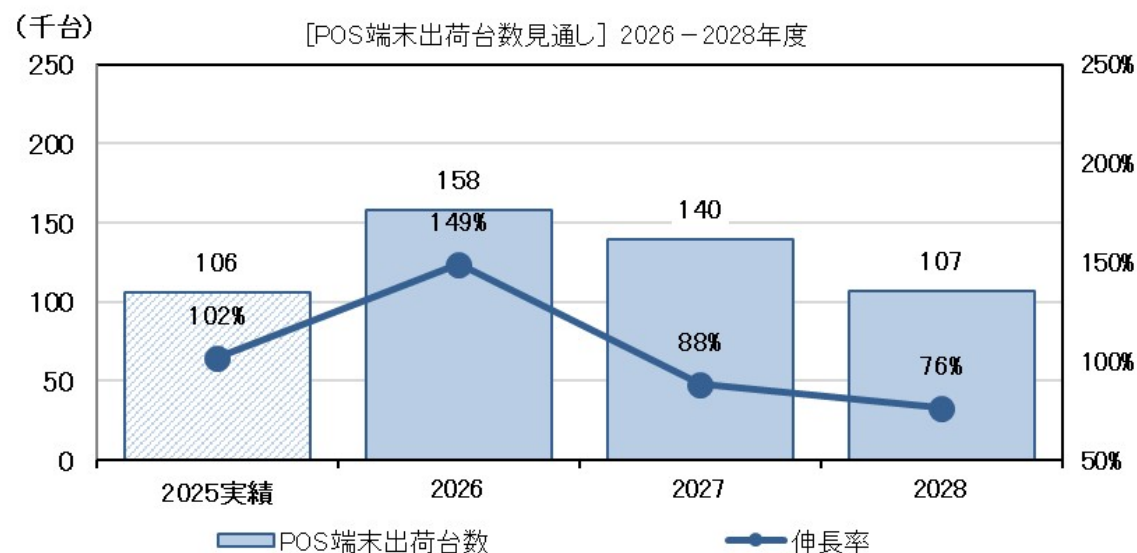
POS端末のうち、セルフチェックアウトシステムの出荷台数、出荷金額(構成比)

4. 調査方法:2025年度実績を100としたときの伸長率または構成比

4.1 POS端末出荷見通し 出荷台数

■ 大手CVS端末の入れ替え影響により、2026～2027年度にかけて出荷台数は増える見通し

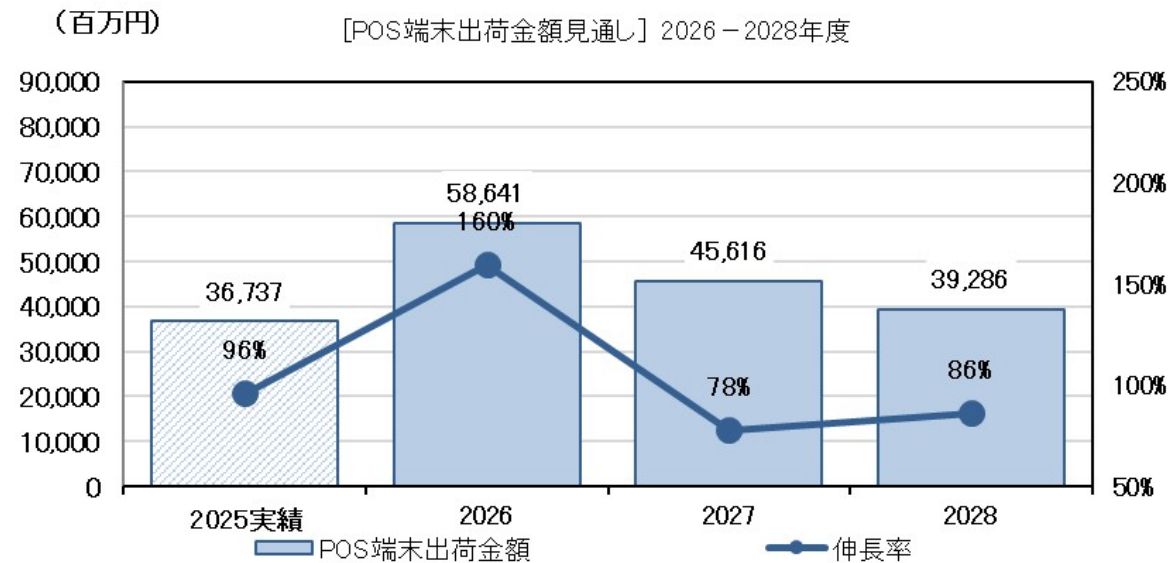
- 大規模導入したCVS店舗へのシステム更新による入替需要により、2025年度実績10.6万台から、15万台程度へと大きく伸長すると見通された。



4.2 POS 端末出荷見通し 出荷金額

■ 出荷台数と同様に大手CVS端末の入れ替え影響を受ける見通し

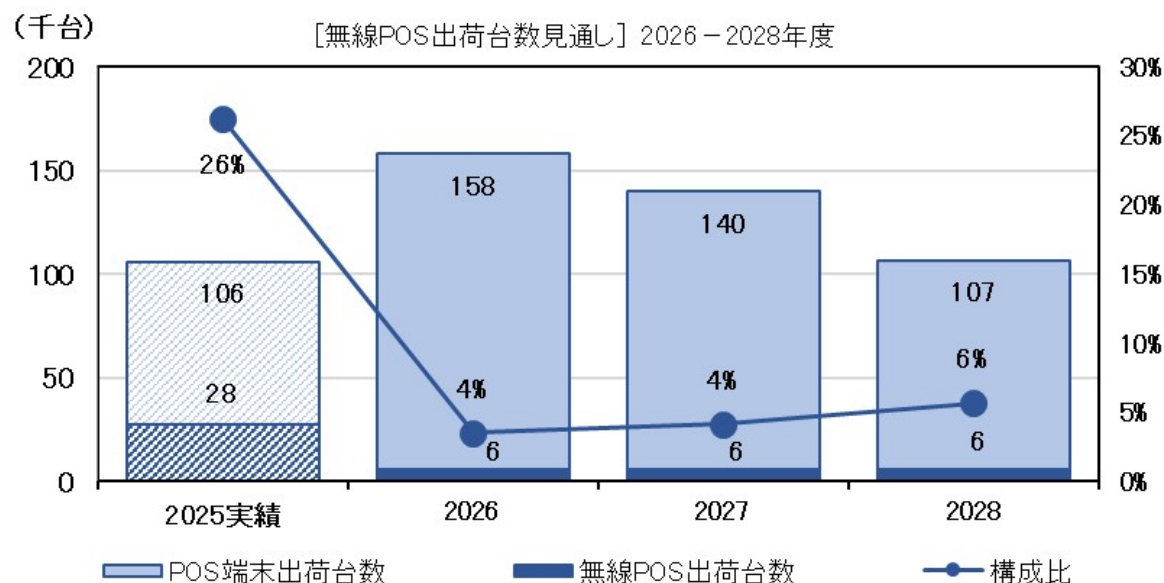
- 引き続き人件費高騰、メモリ供給不足による価格高騰等の要因を受け製品原価が高騰すると予測される。
原価高騰に対応する為、各社が売価戦略を図った結果、製品単価は上昇すると予想される。
- 但し、大手CVS含む大型物件向けのPOS端末の単価は低くなることが予想される。



4.3 出荷見通し 無線POS出荷台数

■ 2023年度以前と同等の構成比率に戻る見通し

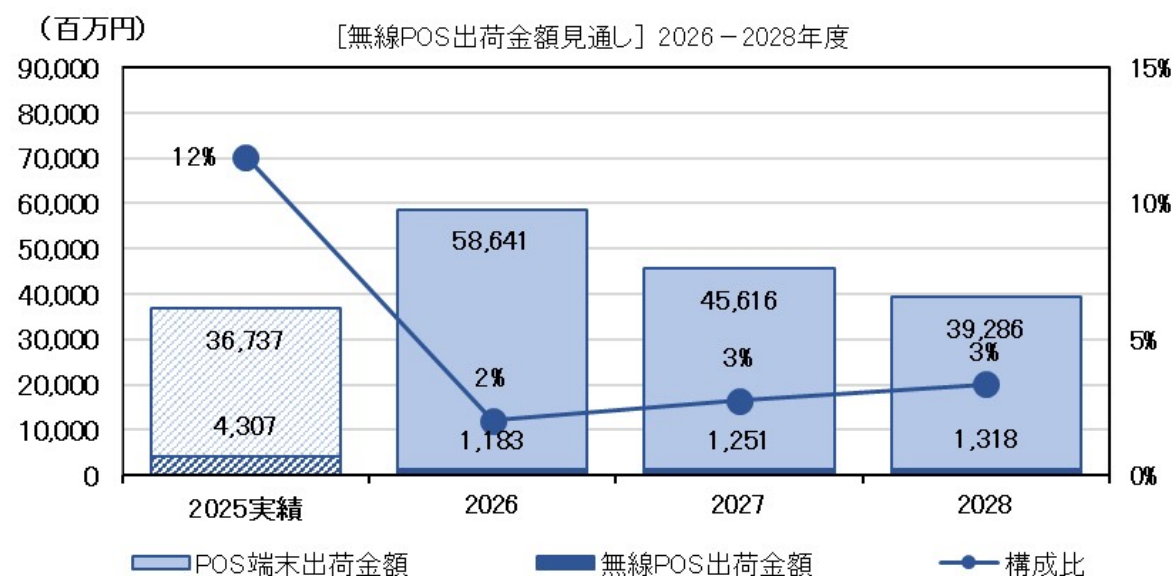
- 売場レイアウトの変更に柔軟な対応が可能な無線POSは、無線LAN技術及びセキュリティ技術の向上により、そのメリットを活かせる業態を中心に普及している。2025年度は大幅に台数が増加したが、一時的な物件影響によるものと見立てている。有線LANと比較すると、接続の安定性や通信速度に差があるため、大幅な比率の増加も見込まれず、今後も同様の構成比で推移する見通しとなっていることが窺える。



4.4 出荷見通し 無線POS出荷金額

■ 3%前後の構成比で推移の見通し

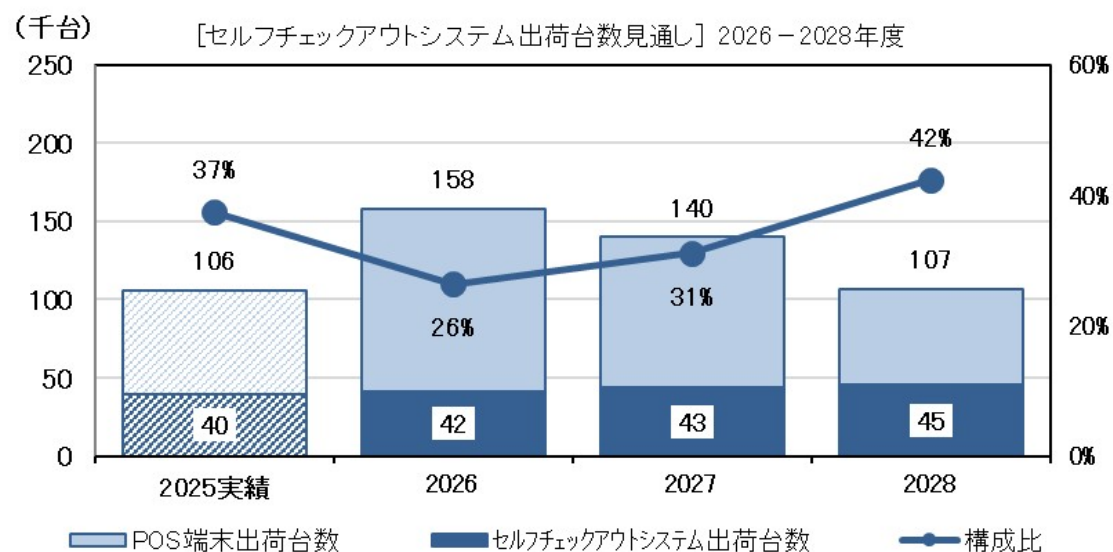
- 出荷台数見通しと同様に、2025年度の一時的な物件影響から元の水準に落ち着く見通しである。
2024年度以前と同様に構成比3%程度で推移すると見通された。



4.5 出荷見通し セルフチェックアウトシステム出荷台数

■ 更に出荷台数を上げていく見通し

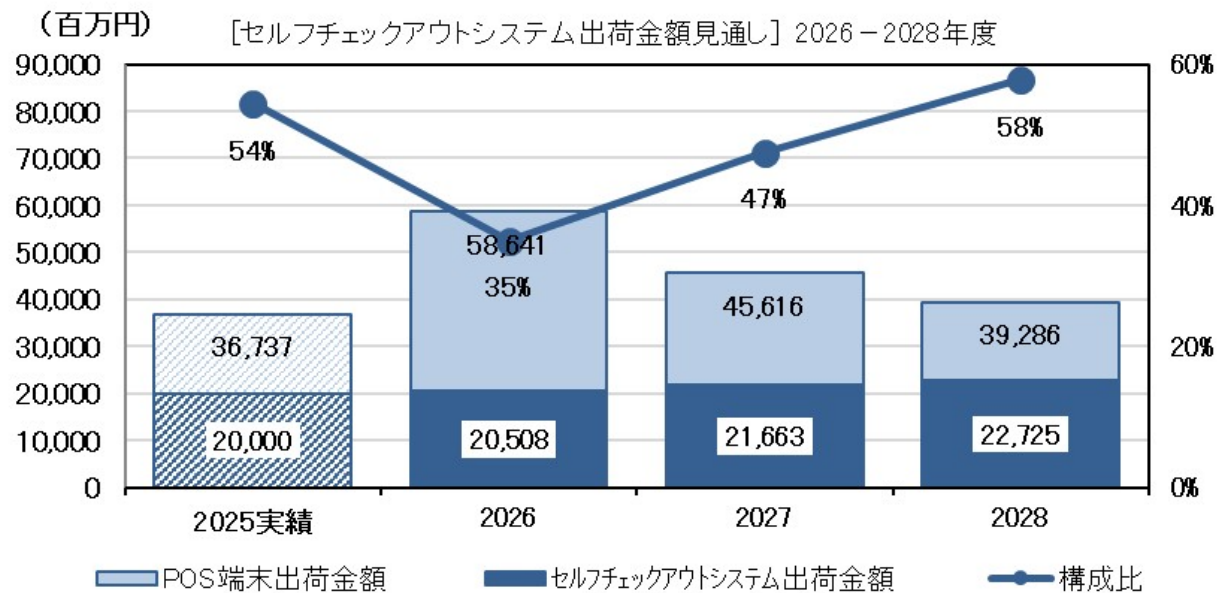
- 2026年度より大手CVSの導入に伴ってPOS全体の出荷台数が増加する為、セルフチェックアウトの構成比率は大幅に落ちるが、実際の出荷台数は高水準を維持する見通しとなった。高齢化による労働人口減少や人手不足への対策に加えて、キャッシュレス決済の普及にともないキャッシュレスセルフが増加傾向である。



4.6 出荷見通し セルフチェックアウトシステム出荷金額

■ 構成比は出荷台数と同等に伸長していく見込み

- 出荷金額に関しては出荷台数同様、大手CVSの導入に伴って構成比率は一時的に落ちるが、全体の台数推移は伸長していく見通しとなった。



5. カード決済端末の動向

■ 製品の定義：カード決済端末

- クレジットカードまたはデビットカードの信用照会端末機で無効カードの判定、与信の照会、伝票発行、ギャザリング、代金の決済ができる端末
 - ①有線または無線で電話回線または専用回線に接続されているもの
 - ②クレジット端末単機能、デビット端末単機能ならびにデビットカード／クレジットカード双方の決済機能を持つ端末を含む
 - ③電子マネー専用端末は除く
 - ④カード決済端末・据置型：カード決済端末・据置型として型番をとっているもの。／店舗等に置く据置型の端末。
 - ⑤カード決済端末・携帯型：カード決済端末・携帯型として型番をとっているもの。／電池駆動で携帯型の端末。

■ 2025年度の出荷実績

- 自主統計参加会社による四半期毎のデータに基づく

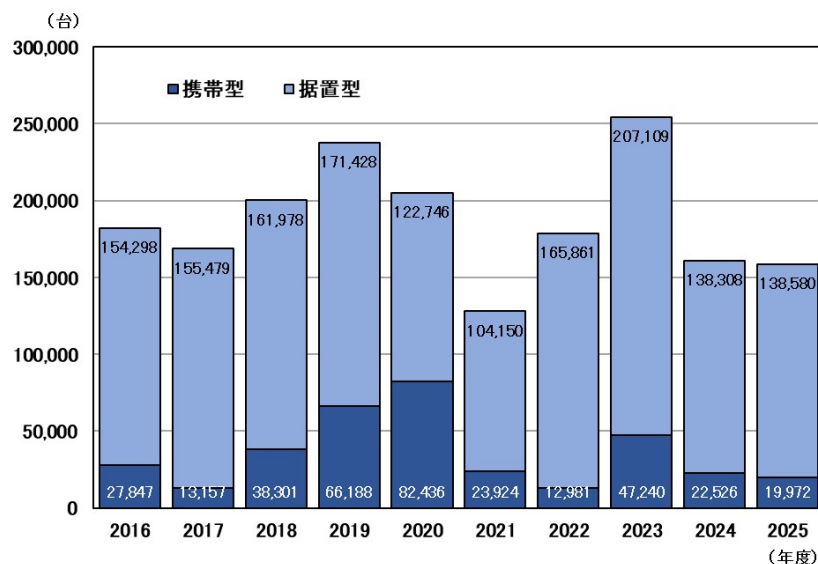
■ 今後3ヶ年の出荷見通し

- 自主統計参加会社に対し「据置型」「携帯型」に区分して出荷見込みのアンケートを実施。2024年度を100としたときの伸長率で回答

5.1 カード決済端末 出荷台数実績推移

- 2025年度 カード決済端末出荷台数は約15.9万台、前年度比99%、
据置型 約13.9万台 前年度比 100%
携帯型 約 2.0万台 前年度比 89%

- カード決済端末は、政府のキャッシュレス推進施策を背景に導入が進み、2023年度に記録的な出荷台数となった。その反動として、2024年度および2025年度は需要が一巡し、導入ペースは落ち着いている。



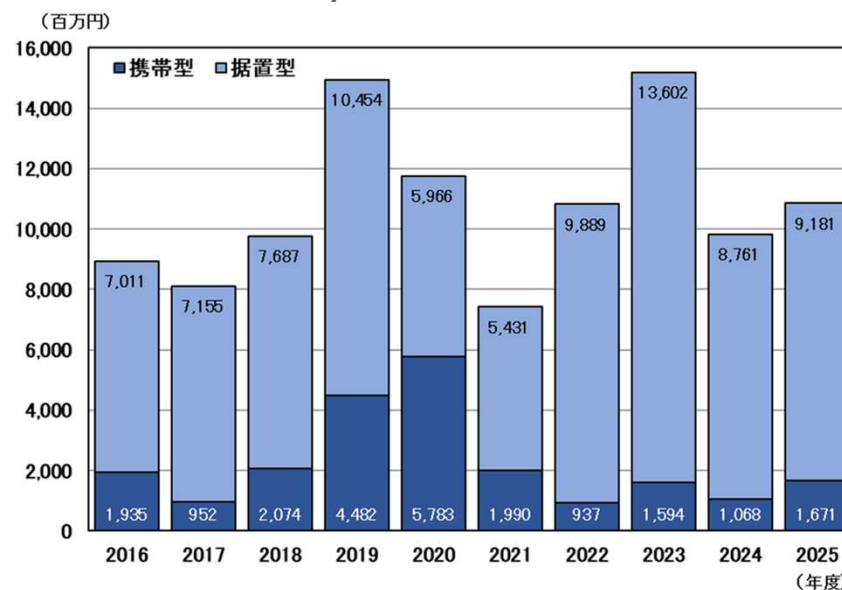
5.2 カード決済端末 出荷金額実績推移

■ 2025年度の出荷金額は約108.5億円、前年度比110%

据置型 約 91.8億円 前年度比 105%

携帯型 約 16.7億円 前年度比 156%

- 出荷台数と同様に、2023年度に記録的な出荷金額となった反動として、
2024年度および2025年度は需要が一巡し、導入ペースが落ち着いている。
- 携帯型は大口需要に影響を受けやすいことから、大口需要の減少が要因として窺える。



5.3 カード決済端末 出荷単価実績推移

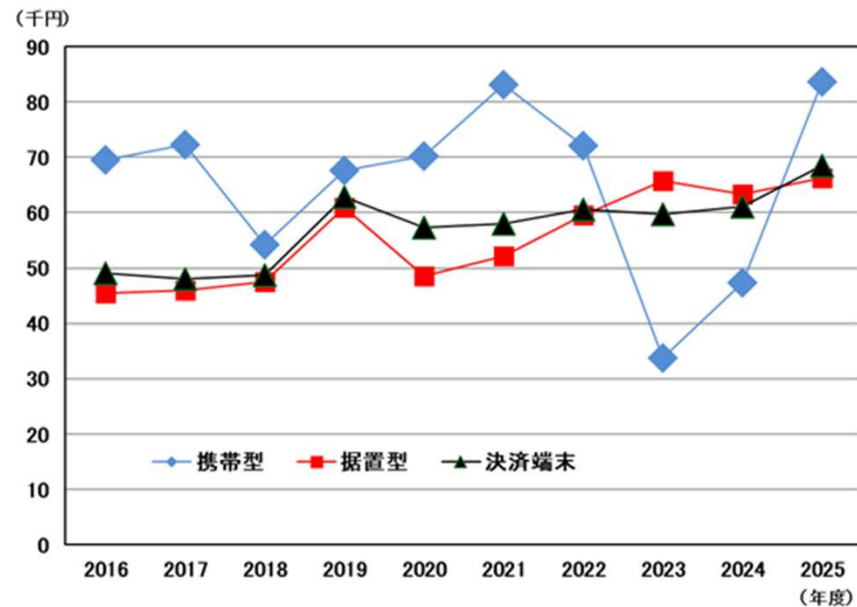
■ 2025年度の出荷単価は6.8万円、前年度比 112%

据置型 6.6万円、前年度比 105%

携帯型 8.4万円、前年度比 176%

■ 据置型端末は、横ばいで推移

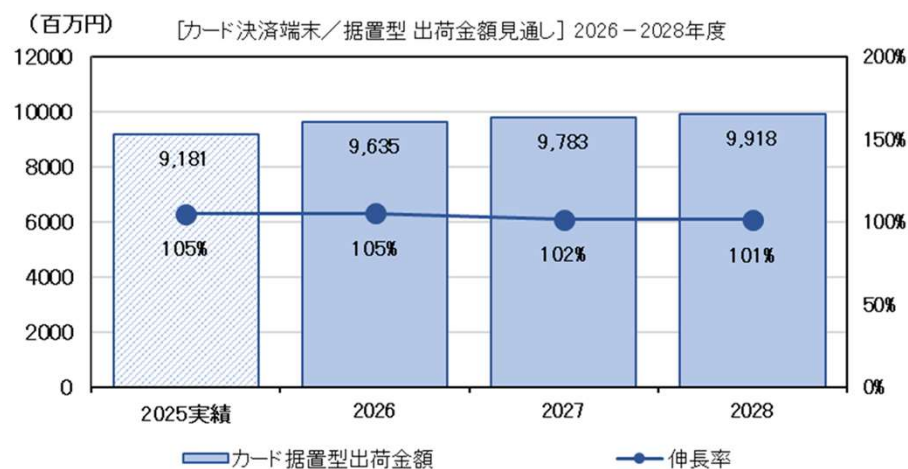
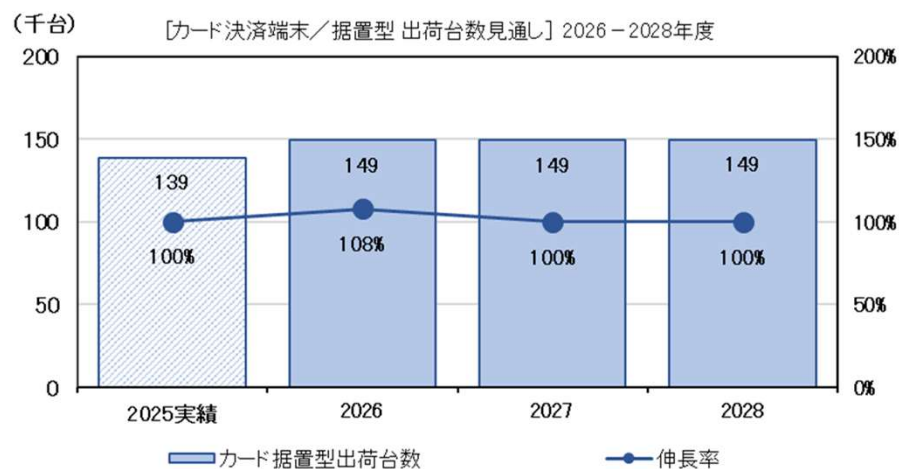
■ 携帯型端末は、2023年度、2024年度に大型案件による単価押し下げの反動により上昇している



5.4 カード決済端末(据置型)見通し

2026年度から2028年度まで微増の見込み

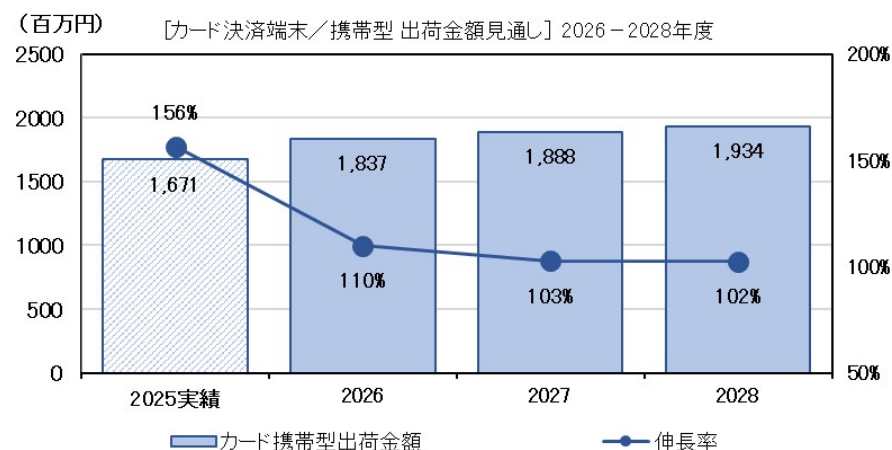
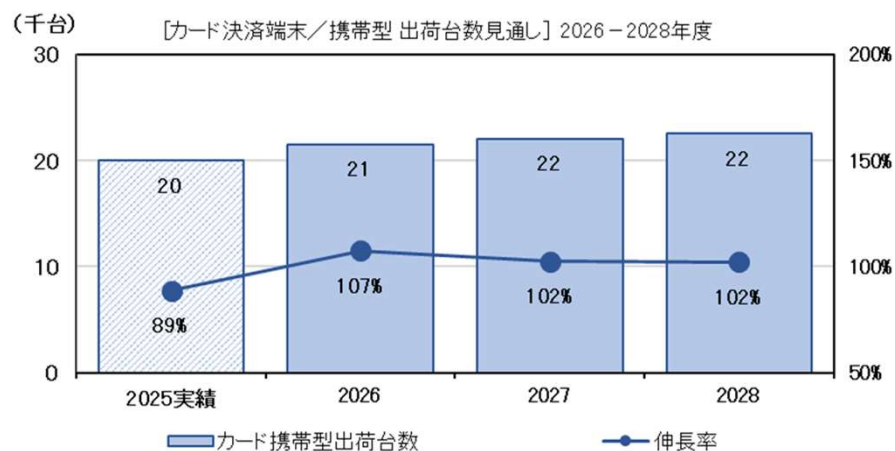
- 据置型製品の出荷台数および出荷金額は微増していくと見通された。軽減税率におけるキャッシュレス・消費者還元事業に向けた導入一巡がありつつも、継続的なリプレイス需要を見越していることが窺える。



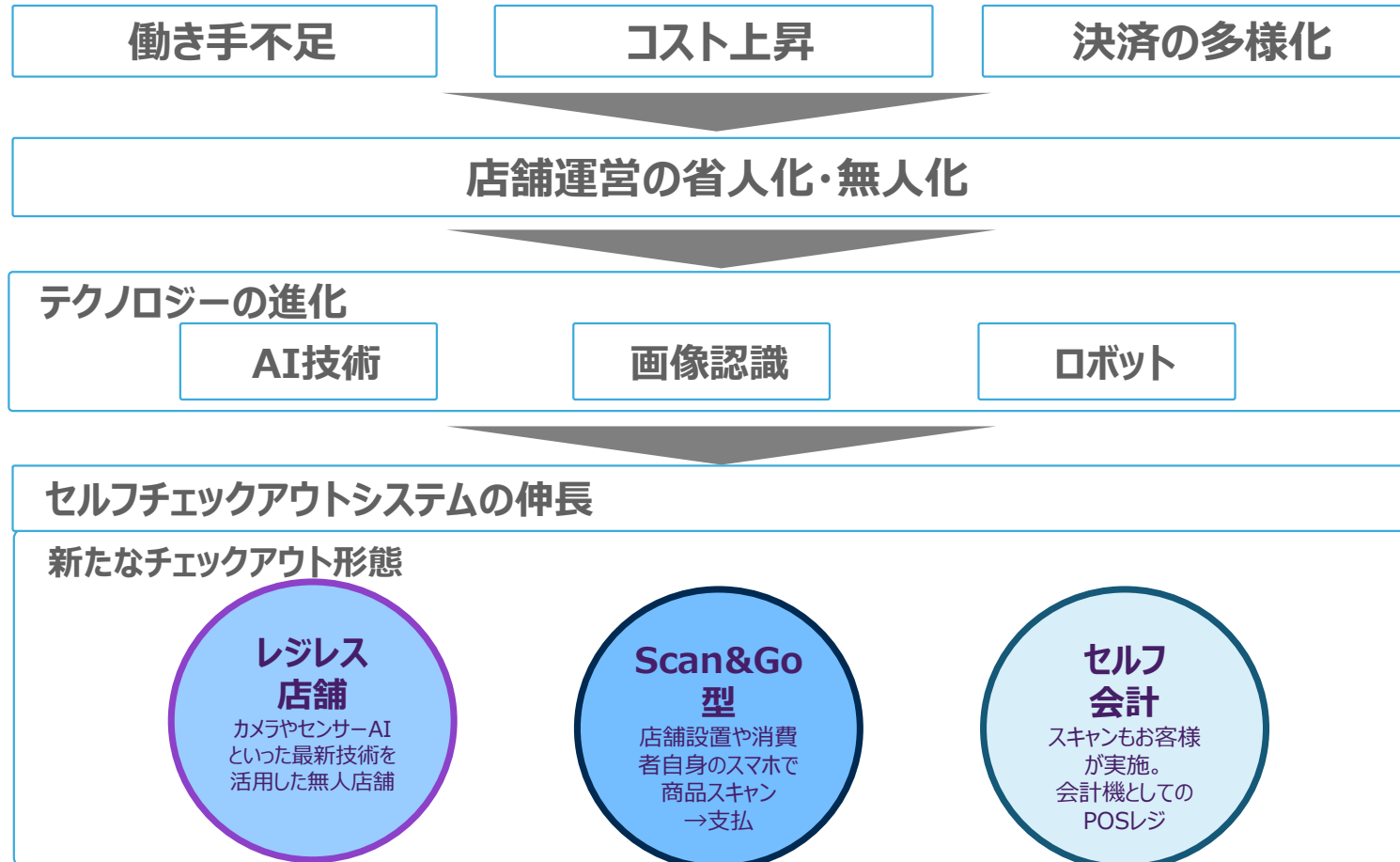
5.5 カード決済端末(携帯型)見通し

2026年度から2028年度まで微増の見込み

- キャッシュレス浸透によりイベント販売などの利用用途の拡大による需要増加を見通されていることが窺える。
- これまで、自主統計に含まれない会社から出荷されるスマートデバイスを活用した決済端末の拡大が想定されていたが、大きな影響は確認されていない。今後の動向については、本委員会として注視したい。



Beyond Devices - AIで拓く、情報端末産業の新領域と価値創造-



当委員会としては、今後も引き続きPOS端末装置だけではなく、POS周辺機器および、それらを取りまくアプリケーションや決済等の社会システムなど全てを包含した議論を重ねる中、今後予想される店舗形態の在り方についても討議を深め、的確な情報発信に努めていく所存である。

流通POS端末調査

ご清聴ありがとうございました。

流通POS端末専門委員会
東芝テック株式会社 竹内 大祐